

てがぬましゅうへん
手賀沼周辺のデジタル野鳥図鑑

やちょうずかん

あびこやちょうをまもるかい へん
我孫子野鳥を守る会編

この^{ずかん}図鑑^{みかた}の見方

^{ばんごう} No.番号 ^{なまえ} 鳥の名前

^か ^{なまえ}
(科の名前)

^{ぜんちょう} ^{しめ}
大きさ:全長を示しています。

^{ばあい}
春~夏の場合

^{ばあい}
秋~冬の場合

^{ばあい}
一年中の場合

色分け

^{ごろ} ^{ばあい}
いつ頃見られるか:(色は一年中の場合)
^{じき} ^{しめ}
見れる時期を示しています。

どこで見られるか:
^{しめ}
よく見られる所を示しています。

^{すがた} ^{かたち}
どんな姿、形か:
^{すがた} ^{かたち} ^{とく} ^{しめ}
姿や形の特ちょうを示しています。

^た
その他:
^{おもしろ} ^{しめ}
そのほかの面白いことを示しています。

^{しゃしん}
その鳥の写真です。

^{しめ}
鳴き声:どんな鳴き声かを示しています。

ことば い かた せつめい
言葉（言い方）の説明（1）

ぜんちょう おばね はし
全長：くちばしの先から尾羽の端までの長さをいいます。

か からだ とく あつ い かた
科：体の特ちょうがにている鳥の集まりの言い方です。

りゅうちょう
留鳥：一年を通して見られる鳥のことをいいます。

なつどり と たまご うこそだ
夏鳥：春に南の方から日本に飛んできて、日本で卵を産んで子育てし、

秋のはじめには南の方にわたって冬を過ごす鳥のことをいいます。

ふゆどり と す
冬鳥：秋に北の方から日本に飛んできて、冬を過ごし、

春になると北の方にかえり、子育てする鳥のことをいいます。

しっち しめ とち みずべ だいち かこ とち
湿地：湿っぽい水がたまりやすい土地で、水辺や台地に囲まれた低い土地に

よく見られます。ヨシやガマなどのみずけこのしょくぶつ
水気を好む植物がよく見られます。

じょうめん とり せなか つばさ うえがわ おも はね いろ もよう せつめい つか
上面：鳥の背中と翼の上側をいい、主に羽の色や模様の説明に使います。

かめん とり おね はら つばさ したかわ おも はね いろ もよう せつめい つか
下面：鳥の胸から腹と翼の下側をいい、主に羽の色や模様
の説明に使います。

ことば い かた せつめい
言葉（言い方）の説明（2）

かっしょく ちゃいろ ことば
褐色：こげ茶色のことで、黒っぽいと黒褐色、明るい茶褐色などといいます。

じゅうはん からだ はね つばさ たて こっかしよく てん せん もよう
縦班：体や羽・翼にある縦がたの黒や黒褐色のはん点や線のような模様です。

おうはん からだ はね つばさ よこ こっかしよく てん せん もよう
横班：体や羽・翼にある横がたの黒や黒褐色のはん点や線のような模様です。

びはん まゆげ
眉班：目の上にある眉毛のような白っぽい模様。

さえずり しそん のこ いっしょ たまご う そだ
さえずり：オスとメスが子孫を残すために一緒になり、卵を産んで子どもを育てます。

はるさき いっしょ な かた うつく
春先から夏に、オスとメスが一緒になるときのオスの鳴き方で、とても美しい

な かた じぶん なわば す えさ こそだ
鳴き方が多いです。また、自分の縄張り（巣をつくり、餌をとったり子育てを

ばしょ まも な かた
する場所）を守るためにもこの鳴き方をします。

ぢ な いかい な かた き
地鳴き：さえずり以外の鳴き方で、秋から冬によく聞かれます。

はんしょくき しそん のこ いっしょ たまご う こそだ じき
繁殖期：オスとメスが子孫を残すために一緒になり、卵を産んで子育てする時期の

ふつう はるさき じき
ことをいいます。普通は、春先から夏ころの時期になります。

こんいんしょくき はんしょくき くちばし あし いろ か いろ
婚姻色：繁殖期のはじめに嘴や足などの色が変わることもあり、その色をいいます。

この図鑑（ずかん）で紹介（しょうかい）している鳥
次のページで鳥の名前を検索（けんさく）することができます。

No.	鳥の名前	科（か）	ページ	No.	鳥の名前	科（か）	ページ	No.	鳥の名前	科（か）	ページ	No.	鳥の名前	科（か）	ページ
1	アオサギ	サギ	7	17	カワラヒワ	アトリ	23	33	ダイサギ	サギ	39	49	バン	クイナ	55
2	アオジ	ホオジロ	8	18	カンムリカイツブリ	カイツブリ	24	34	タゲリ	チドリ	40	50	ヒドリガモ	カモ	56
3	ウグイス	ウグイス	9	19	キジ	キジ	25	35	タシギ	シギ	41	51	ヒバリ	ヒバリ	57
4	エナガ	エナガ	10	20	キジバト	ハト	26	36	タヒバリ	セキレイ	42	52	ヒヨドリ	ヒヨドリ	58
5	オオジュリン	ホオジロ	11	21	コガモ	カモ	27	37	チュウサギ	サギ	43	53	ホオジロ	ホオジロ	59
6	オオタカ	タカ	12	22	コゲラ	キツツキ	28	38	チョウゲンボウ	ハヤブサ	44	54	ホシハジロ	カモ	60
7	オオバン	クイナ	13	23	コサギ	サギ	29	39	ツグミ	ヒタキ	45	55	ホトトギス	カッコウ	61
8	オオヨシキリ	ヨシキリ	14	24	コチドリ	チドリ	30	40	ツツドリ	カッコウ	46	56	マガモ	カモ	62
9	オカヨシガモ	カモ	15	25	コブハクチョウ	カモ	31	41	ツバメ	ツバメ	47	57	ミコアイサ	カモ	63
10	オナガ	カラス	16	26	サシバ	タカ	32	42	ツミ	タカ	48	58	ミサゴ	ミサゴ	64
11	オナガガモ	カモ	17	27	シジュウカラ	シジュウカラ	33	43	トビ	タカ	49	59	ムクドリ	ムクドリ	65
12	カイツブリ	カイツブリ	18	28	ジョウビタキ	ヒタキ	34	44	ノスリ	タカ	50	60	メジロ	メジロ	66
13	カシラダカ	ホオジロ	19	29	スズメ	スズメ	35	45	ハクセキレイ	セキレイ	51	61	モズ	モズ	67
14	カルガモ	カモ	20	30	セグロカモメ	カモメ	36	46	ハシブトガラス	カラス	52	62	ヤマガラ	シジュウカラ	68
15	カワウ	ウ	21	31	セグロセキレイ	セキレイ	37	47	ハシボソガラス	カラス	53	63	ユリカモメ	カモメ	69
16	カワセミ	カワセミ	22	32	セッカ	セッカ	38	48	ハジロカイツブリ	カイツブリ	54	64	ルリビタキ	ヒタキ	70

鳥の名前の検索(けんさく)

Ctrlキーをおして鳥の名前をクリックすると、その鳥のページがでます。
Ctrlキーをおして左下にある  マークをクリックすると、このページにもどります。

- | | | | |
|--------------------------|-----------------------------|----------------------------|-------------------------|
| ■ アオサギ | ■ カワラヒワ | ■ ダイサギ | ■ バン |
| ■ アオジ | ■ カンムリカイツブリ | ■ タゲリ | ■ ヒドリガモ |
| ■ ウグイス | ■ キジ | ■ タシギ | ■ ヒバリ |
| ■ エナガ | ■ キジバト | ■ タヒバリ | ■ ヒヨドリ |
| ■ オオジュリン | ■ コガモ | ■ チュウサギ | ■ ホオジロ |
| ■ オオタカ | ■ コゲラ | ■ チョウゲンボウ | ■ ホシハジロ |
| ■ オオバン | ■ コサギ | ■ ツグミ | ■ ホトトギス |
| ■ オオヨシキリ | ■ コチドリ | ■ ツツドリ | ■ マガモ |
| ■ オカヨシガモ | ■ コブハクチョウ | ■ ツバメ | ■ ミコアイサ |
| ■ オナガ | ■ サシバ | ■ ツミ | ■ ミサゴ |
| ■ オナガガモ | ■ シジュウカラ | ■ トビ | ■ ムクドリ |
| ■ カイツブリ | ■ ジョウビタキ | ■ ノスリ | ■ メジロ |
| ■ カシラダカ | ■ スズメ | ■ ハクセキレイ | ■ モズ |
| ■ カルガモ | ■ セグロカモメ | ■ ハシブトガラス | ■ ヤマガラ |
| ■ カワウ | ■ セグロセキレイ | ■ ハシボソガラス | ■ ユリカモメ |
| ■ カワセミ | ■ セッカ | ■ ハジロカイツブリ | ■ ルリビタキ |

No.1 アオサギ

(サギ科)

大きさ: 90~98cm



いつ頃見られるか:
一年を通して見られる。

どこで見られるか:

てがぬま てががわ みずべ
手賀沼や手賀川の岸の水辺、田んぼ、
のうすいろ
農水路などでよく見られる。

すがた かたち にほん いちばん
どんな姿、形か:日本で一番大きなサギ
あたま うし かんむり うもう くび
で、頭の後ろに黒い冠のような羽毛、頸
すうほん せん もよう
に数本の黒いたて線の模様がある。

鳴き声:ゴァーとかクァツと鳴く。

た はんしょくき
その他:繁殖期のはじめには、目の先からくちばし、
こんいんしょく
足の色が赤くなる。(婚姻色という。)



No.2 アオジ

(ホオジロ科)

大きさ：^{やく}約15cm



^{ごろ}いつ頃見られるか：

^{て が ぬましゅうへん}手賀沼周辺では冬鳥で、秋の終り頃から
^{ごろ}春の終り頃まで見られる。

^{て が ぬま}どこで見られるか：手賀沼のヨシ原、^{ゆうほ}遊歩
^{どう しげ}道の茂みや木の上、^{まわ}田んぼや畑、林の周り
^{いろいろ ところ}など、色々な所で見られる。

^{すがた かたち}どんな姿、形か：^{あたま くら みどり}オスは、頭が暗い緑
^{せ くら かつしよく むね}色、目の先が黒色、背が暗い褐色で、胸か
^{はら みどり}ら腹は緑がかった^{きいろ}黄色。メスはオスよりも
^{ぜんたい}全体の色がうすく、^{きいろ}黄色っぽい。

鳴き声：秋から冬はジツと鳴く。春から夏は
チョッピンチーチュと鳴く。



No.3 ウグイス

(ウグイス科)

大きさ: 14~15.5cm



^{ごろ}
いつ頃見られるか:
一年を通して見られる。

どこで見られるか:

^{て が ぬましゅうへん} ^{こうえん}
手賀沼周辺では、冬は林やヨシ原、公園の
^{かきね} ^{しげ}
垣根などの茂みにかくれていて、なかなか
^{すがた}
姿を見ることができない。夏は木の上で鳴
くこともある。

^{すがた} ^{かたち}
どんな姿、形か:

^{じみ} ^{びはん}
身体の色は地味なうす茶色で、眉班(目の
^{まゆげ} ^{せん}
上の眉毛のような白っぽい線)がある。

^{はるさき}
鳴き声: 春先から夏にはホーホケキョと鳴き、
秋から冬にはチャツ、チャツと鳴く。



No.4 エナガ

(エナガ科)

大きさ: ^{やく}約14cm (^お尾の長さ8cm)



^{ごろ}いつ頃見られるか:

一年を通して見られる。

どこで見られるか:

^て手賀沼周^{がぬましゅうへん}辺では、^{ゆうほどう}遊歩道や^{こうえん}ヨシ原、公園
の林などでよく見られる。

^{すがた}どんな姿、^{かたち}形か: ^{からだ}身体は小さく^お尾がとて
も長い。くちばしが小さく、頭は白くて目の
上に黒い線がある。

鳴き声: チーチーチリリ、ジュリジュリジュリ
などと鳴く。

^たその他: 秋から冬の間はシジュウカラやメ
ジロなどが^ま混じる^む群れていることが多い。



No.5 オオジュリン

(ホオジロ科)

大きさ: ^{やく}約17cm



^{ごろ}いつ頃見られるか: ^{て が ぬましゅうへん}手賀沼周辺では ^{ふゆどり}冬鳥
で、秋の終りから ^{はるさき}春先まで見られる。

どこで見られるか: ヨシ原などでよく見られ
る。秋は見つけにくいだが、1月頃になると、
^{ごろ}ヨシの上に上がって見やすくなる。

^{すがた かたち}どんな姿、形か: オスは ^{あたま}頭が ^{あかちやいろ}赤茶色、
^{じょうめん}上面は ^{ちやいろ}うす茶色に ^{かつしよく}褐色の ^{じゅうはん}縦班があり、
^{かめん}下面は白っぽい。メスは全体に色がうすい。

^たその他: ヨシの ^{くき}茎に止まり、^{くき}茎を ^{くき}くちばしで
^つ突っついて ^{こんちゅうらい}中にある昆虫類を食べる。

鳴き声: チュリーンなどと鳴く。



No.6 オオタカ

(タカ科)

大きさ: オス約50、メス約57 cm



いつ頃見られるか: 一年を通して見られるが、なかなか見ることができない。

どこで見られるか: 注意して探すと、上空を飛ぶ姿や手賀沼の杭上などで見られることがある。

どんな姿、形か: 翼は幅広く尾羽が長い。尾羽には4本の黒い横帯(帯のような太い模様)がある。体の上面は青っぽい灰色で、下面は白く黒褐色の細い横斑がある。目の周りから首の後まで黒い太い線があり眉班は白い。

鳴き声: キイキイキイ、ケーケーケーなどと鳴く。



No.7 オオバン

(クイナ科)

大きさ: 36~39 cm



いつ頃見られるか: 一年を通して見られる。
冬には北から渡ってくるもので夏より数が
増え、大群が見られることがある。

どこで見られるか: 水草の多い沼や池にす
んで、春には手賀沼でも卵を産んで子育て
をする。5~6月頃にはヒナをつれた親鳥を
見ることがある。

どんな姿、形か: 全身黒色で、白い額板
(額にある板のような羽が生えていない
部分)があり、くちばしも白い。

その他: 我孫子市の鳥に指定されている。

鳴き声: キョン、キョンと高い声で鳴く。



No.8 オオヨシキリ

(ヨシキリ科)

大きさ: ^{やく}約18.5cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:夏鳥で、4月から9月
^{ころ}頃に見られる。

どこで見られるか:夏の初め頃^{ごろ}(5~6月)
には、手賀沼^{てがぬま}や農地^{のうち}、河原^{かわら}などのヨシ原で
よく見られる。

どんな姿、形か:体^{すがた}の上面^{かたち}は黄色^{じょうめん}っぽい
褐色^{かつしょく}、下面^{かめん}は色がうすい褐色^{かつしょく}で白い眉班^{びはん}
がある。

鳴き声:ギョギョシと^{おおごえ}大声で鳴く。

^{ころ}8月頃には鳴かなくなる。

その他:オスは、ヨシの茎^たにとまり、^{くき}橙色^{だいたいいろ}
の口を見せて夜も昼もさえずり^{つづ}続ける。



No.9 オカヨシガモ

(カモ科)

大きさ: 46~58 cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:冬鳥で、秋の終わりか
^{はるさき}ら春先(3月はじめ頃)^{ごろ}まで見られる。

^{てがぬま}どこで見られるか:手賀沼の上沼、
^{かみぬま}
^{とく}特に大津川河口の近くでよく見られる。
^{おおつがわかこう}

^{すがた}どんな姿、^{かたち}形か:^{あたま}オスは頭が^{かつしよく}褐色で体は
^{はいいろ}灰色がかり、^{くちばし}くちばしは黒い。^{おばね}尾羽は^{はいいろ}灰色
^{しり}でお尻の黒が目立つ。^{めだ}メスは目の^{まわ}回りが黒
^{ぜんしん}っぽく、^{かつしよく}全身が褐色で黒いはん点模様があ
^{ぜんしん}る。^{かつしよく}メスのくちばしは^{だいたいいろ}橙色で^{じょうぶ}上部が黒い。

鳴き声:アツ、アツとか、^{ふと}ゲツ、ゲツと、太く
^{みじか}短い声で鳴く。



No.10 オナガ

(カラス科)

大きさ: 34~39 cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られ、
^{かしわし}柏市の鳥に指定されている。
^{してい}

どこで見られるか:^{まちなか}街中から^{さんち}山地の^{ばやし}林や
^{こうえん}公園、^{かわら}河原の^{ばやし}林などで見られ、^む群れていることが多い。

^{すがた}どんな姿、^{かたち}形か:^{つばさ}翼と^{おぼね}尾羽は青っぽい
^{はいいろ}灰色で、^{ぼうし}黒いベレー帽子をかぶったような
^{あたま}頭と^{おぼね}長い^{うつく}尾羽が美しい。

^たその他:^{ひがしにほん}東日本、^{とく}特に^{かんとうちほう}関東地方に多いが、
^{にしにほん}西日本ではめずらしい。^すツミの^{ちか}巣の近くで
^{いっしょ}一緒に^{かんさつ}観察されることが多い。

鳴き声:「ギューイ」「ゲェー」「ギユイキュ
^{いろいろ}キュキュ」などと^な色々な^{かた}鳴き方をする。



No.11 オナガガモ

(カモ科)

大きさ:オス51~74 cm、メス43 ~ 63 cm



メス

^{ごろ}
いつ頃見られるか:冬鳥で、9月終わりにから
^{ごろ}
3月頃まで見られる。

^{て が ぬまこうえん}
どこで見られるか:手賀沼公園ではよく見
^{て が ぬま} ^{とし}
られ、手賀沼では、多く見られる年と少ない
^{とし}
年がある。

^{すがた かたち} ^{ほそなが} ^{おばね}
どんな姿、形か:オスの細長く黒い尾羽
^{とく} ^{あたま}
が特ちょう。オスの頭はチョコレート色で、
^{くび} ^{せん} ^{とうぶ} ^く ^こ
長い首の白い線が頭部に食い込む。くちは
^{ふち} ^{はいいろ} ^{じょうめい} ^{わき}
しは黒く、淵が青っぽい灰色。上面と脇は
^{はいいろ} ^{わき} ^{おうはん}
灰色で、脇には黒く細かい横斑がある。メ
^{ぜんたい} ^{かつしよく} ^{もよう}
スは全体が褐色でまだら模様。

鳴き声:フルリ、フルリなどとよく鳴く。



No.12 カイツブリ

(カイツブリ科)

大きさ: 25~29 cm



鳴き声: キュリリリ、ピュルル、ピッピッなどと鳴く。

いつ頃見られるか: 一年を通して見られる。
5~8月の繁殖期には、水面の上に水草の茎や葉でつくられた浮巢や、ヒナを背に乗せる姿が見られることがある。

どこで見られるか: 手賀沼や手賀川、田んぼの水路(小川)などで見られる。

どんな姿、形か: 日本で一番小さいカイツブリのなかまで、くちばしと目の間に白いはん点がある。

その他: 水にもぐって、魚や水の中の昆虫などを食べる。



No.13 カシラダカ

(ホオジロ科)

大きさ: ^{やく}約15cm



^{ごろ}いつ頃見られるか: 冬鳥で、11月の終わりから3月頃^{ごろ}まで見られる。

どこで見られるか: 明るい林やその^{まわ}り、^{くさち}草地など、^{てがぬま}手賀沼の^{はら}ヨシ原でも見られる。

^{すがた}どんな姿、^{かたち}形か: ^{あたま}頭から^{じょうめん}上面は^{かつしよく}ほぼ褐色で、^{はら}腹は^{あたま}白い。^{うし}頭の^{かんむり}後ろに^{はね}冠のような羽がある。

^たその他: ^{くさはら}かれた草原では^む群れていることもあり、^{くさ}かれ草にかくれて^{くさ}見つけにくいだが、^と近よると^だとつぜん^{えだ}飛び出し^と木の枝に止まる。

^{ぢな}鳴き声: 地鳴きはチッなどと鳴く。アオジとよく似ている。



No.14 カルガモ

(カモ科)

大きさ: 58~63 cm



鳴き声: グェ、グェと太い声で鳴く。

いつ頃見られるか: ^{ごろ}最も身近なカモで、^{もっと みぢか}一年を通して見られる。

どこで見られるか: ^{てがぬま てががわ すいろ}手賀沼や手賀川、水路
^{おがわ いろいろ ところ}(小川)、田んぼなど、色々な所で見られる。
^{たう ころ}田植えの頃から夏は田んぼで見られることが多い。

どんな姿、形か: ^{すがた かたち かお くび むね}顔、首から胸は白っぽく、
^{むね かつしよく あたま め まわ}胸には褐色のはん点がある。頭と目の回り
^{せん せん}の線は黒く、ほおにも黒い線がある。くちば
^{さき だいだい}しは黒く、先が黄色で、足は 橙 色。



No.15 カワウ

(ウ科)

大きさ: 80~100 cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか:^{てがぬま}手賀沼や^{てががわ}手賀川で^{くい}杭の上^{はね}にいたり、ぬれた羽を広げてかわかす^{すがた}姿がよく見られる。

^{すがた}どんな^{かたち}姿、^{わか}形か:体がほぼ黒いが、若い^{とり}鳥では褐色、^{かっしょく}下面は^{かめん}ほぼ白いものもいる。
^ねくちばしの^{まる}つけ根は^{はんしょくき}黄色く丸い。繁殖期に^{あたま}は頭が白くなる。

^たその他:^{さかな}もぐって^う魚をとり、浮かび上がり^{むかし}のみこむ。昔はほとんどいなかったが、^{まえ}30年ほど^{きゆう}前から^{かず}急に^ふ数が増えてきた鳥。

鳴き声:グルルッ、グワッと鳴く。



No.16 カワセミ

(カワセミ科)

大きさ: ^{やく}約17cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。
8月~^{よくねん}翌年3月頃に見られることが多い。

どこで見られるか:^{てがぬま みずべ}手賀沼の水辺でよく見られる。
^{すいろ こうえん いけ}川や水路、公園の池などでも見られる。

^{すがた かたち}どんな姿、形か:^{からだ くら あたま}小さな体に比べて頭と
^{くちばし}嘴が^{あし}大きく、^{おばね}足と^{みじか}尾羽は^{じょうめん}短い。上面は青
^{みどり}っぽい^{あたま}緑色、^{みどり}頭は^{かめん}緑色、^{あかちいろ}下面は赤茶色。

^たその他:^{うつく}とても美しい鳥で^{にんき}人気がある。川
^{よご}の^{きんねん}汚れて^{ぬま}少なくなったが、近年は川や沼の
水が^ふきれいになったため^ふ増えてきた。

鳴き声:^とチーと飛びながら鳴くことが多い。



No.17 カワラヒワ

(アトリ科)

大きさ：^{やく}約14cm



鳴き声：^ち地鳴きはキリッキリッ。^{さえず}囀りはキリキリコロコロと^と飛びながら鳴いたり、ジュイーンと鳴く。

^{ごろ}いつ頃見られるか：一年を通して見られる。

どこで見られるか：^{はたけ}田んぼや^{かせんしき}畑、河川敷、^{はら}ヨシ原などでよく見られ、秋冬には田んぼや^{はたけ}畑に^む大きな群れでいることがある。^{でんせん}電線にも^む群れて^と止まる。

どんな姿、形か：^{すがた}全身が^{かたち}黄っぽい^{ぜんしん}褐色だが、^{かっしょく}つばさの一部が黄色。飛ぶ時には^{いちぶ}つばさの^{めだ}黄色が目立つ。



No.18 カンムリカイツブリ

(カイツブリ科)

大きさ: 46~51 cm



いつ頃見られるか:^{ごろ}冬鳥で、11月から3月^{ふゆどり}
^{ごろ}頃までよく見られる。

どこで見られるか:^{てがぬま}手賀沼や^{てががわ}手賀川の
^{すいめん}水面でよく見られる。

どんな姿、形か:^{すがた}頭の^{かたち}黒い^{あたま}羽毛が^{うもう}冠^{かんむり}をかぶったような、日本で一番大きいカイツブリ類。首が長く、目の上は白くて、くちばしのつけ根と目をむすぶ黒い線が目立つ。

その他:^た水にもぐって^{さかな}魚や水の中の^{こんちゅう}昆虫などを食べる。

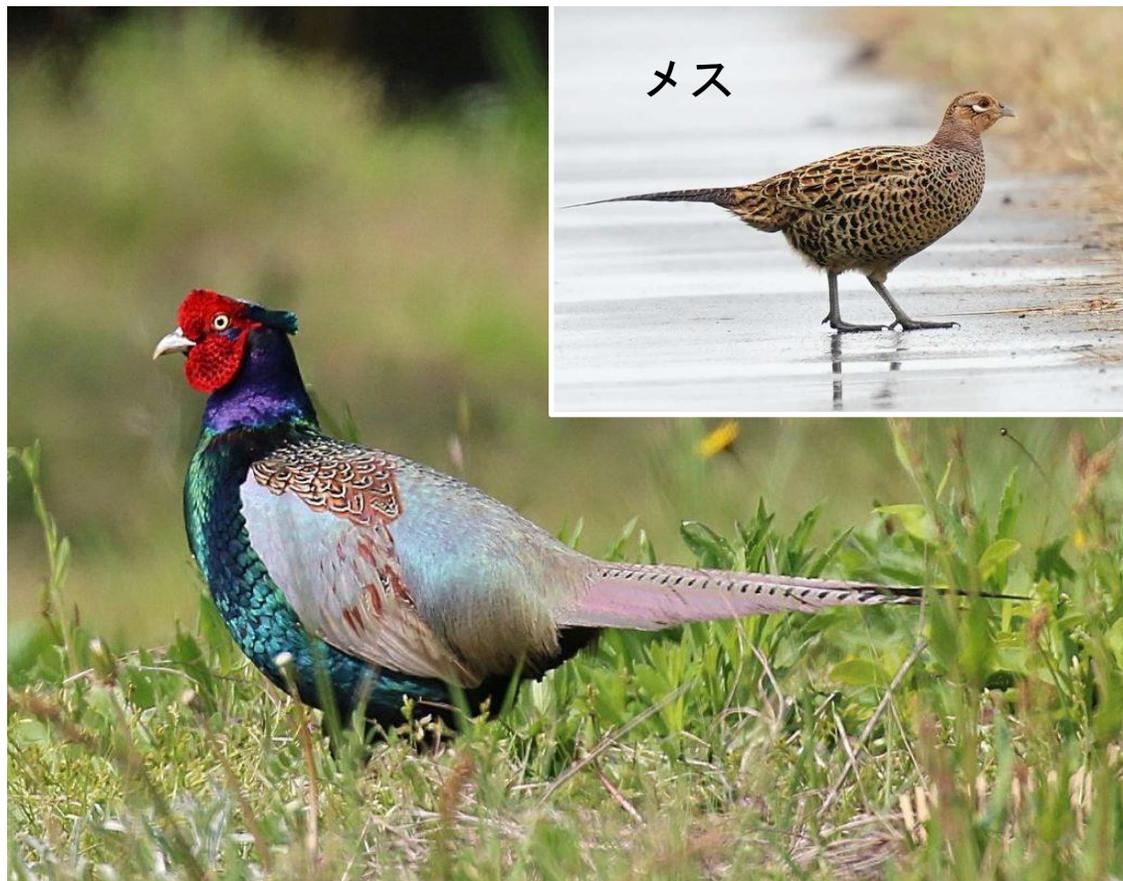
鳴き声:ほとんど鳴かない。



No.19 キジ

(キジ科)

大きさ: オス約80、メス約60 cm



メス

いつ頃見られるか:一年を通して見られる。
特に繁殖期の春にはよく見られる。

どこで見られるか:ヨシ原、田んぼや畑などで見られ、手賀沼遊歩道でも周りのヨシ原や草地で見られる。

どんな姿、形か:オスの顔には、赤い肉だれのようなひふがあり目立つ。首から胸、下面は光るような緑色と紫色で、尾羽はとても長くて黒い斑点がある。メスは全体が黄色っぽい褐色で黒い斑点がある。

鳴き声:オスは、ケン、ケーンと大きな声で鳴く。

その他:日本の国の鳥。



No.20 キジバト

(ハト科)

大きさ：^{やく}約33cm



^{ごろ}いつ頃見られるか：一年を通して見られる。

どこで見られるか：^{あか}明るい^{はやし}林、^{こうえん}公園、^{にわさき}庭先
などでよく見られる。

どんな姿、形か：^{すがた}黒地に^{かたち}赤っぽい^{くろぢ}褐色の^{かっしょく}褐色の
^{ふち}縁どりが^わある羽が^{もよう}ウロコ模様に見える。首
には^{はいいろ}灰色と^{よこ}黒の^{もよう}横じま模様がある。

その他：^たヤマバトとも呼ばれる。^よピジョンミ
ルクといわれるミルクのような^{えいようえき}栄養液をヒ
ナの^の飲ませて^{こそだ}子育てする。

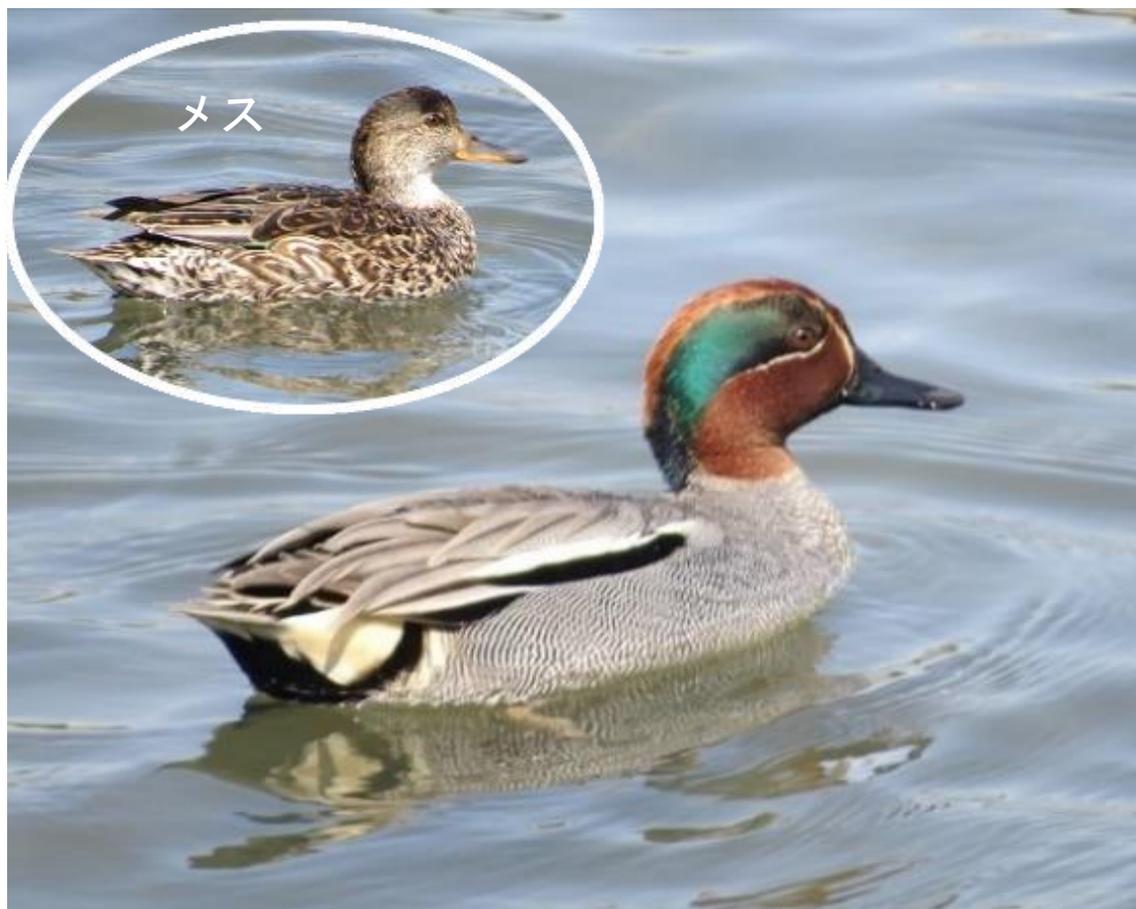
鳴き声：デデッポッポーと鳴く。



No.21 コガモ

(カモ科)

大きさ: 38~43 cm



いつ頃見られるか:^{ごろ}冬鳥で、^{ふゆどり}秋のはじめから春の終わりまで、^{いちばん}カモのなかまでは一番長い間^{あいだ}見られる。

どこで見られるか:^{てがぬま}手賀沼や田んぼの^{すいろ とねがわ しっち}水路、利根川、湿地などで見られる。^{はら}ヨシ原の^{ふち しげ}縁や茂みにかくれていることも多い。

どんな姿、形か:^{すがた かたち}オスは、^{あたま あか}頭が明るい^{ちやいろ め くび うし}茶色、目から首の後ろにかけて^{みどり}緑色で、目の下に^{せん}白い線がある。^{からだ はいいろ}体は灰色で、^{せん}黒い線のような^{もよう}模様がある。メスは^{ぜんしんかつしよく}全身褐色で^{てんもよう}黒い^{じみ}はん点模様があり、地味な色。

鳴き声: オスは^{ふえ}ピリ、^ねピリと^{ふえ}笛の音のような声で鳴く。



No.22 コゲラ

(キツツキ科)

大きさ: ^{やく}約15cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: ^{てがぬまゆうほどう}手賀沼遊歩道の ^{なみき}並木
^{ひろば}や ^{はら}広場、^{こうえん}ヨシ原の ^{はやし}木の上、^{こうえん}公園や ^{はやし}林などで
よく見られ、鳴き声とドラミングの音(木を
つつく音)で気づくことが多い。

^{すがた}どんな ^{かたち}姿、^{あたま}形か: ^{じょうめん}頭から ^{こっかっしょく}上面は黒褐色
で、^{よこ}白い ^{もよう}横しま模様があり、^{かめん}下面は白い。

鳴き声: ^{とく}ギーツ、ギーツと ^{とく}特ちょうのある
声で鳴く。

^たその他: 冬はシジュウカラやメジロなどの
^む群れにまじっていることがある。



No.23 コサギ

(サギ科)

大きさ: 55~65 cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか:^{てがぬま}手賀沼や^{てががわしゅうへん}手賀川周辺
^{みずべ}の水辺、^{すいろ}田んぼや水路などで見られる。

どんな姿、形か:^{すがた}日本の^{かたち}白いサギ類では
^{いちばん}一番小さい。くちばしが黒く、^{あしゆび}足指の黄色が
^{とく}特ちょう。^{はんしょくき}繁殖期には^{あたま}頭に2本の^{かんむり}冠のよ
^{うもう}うな羽毛がのびる。^{はんしょくき}繁殖期のはじめには
^{めさき}目先と^{あしゆび}足指が赤っぽくなる。

^{はるさき}鳴き声:^{ごろ}春先から夏頃にグワーと鳴く。



No.24 コチドリ

(チドリ科)

大きさ: ^{やく}約15cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:^{なつどり}夏鳥で、春から秋に見られる。

どこで見られるか:^{て が ぬましゅうへん}手賀沼周辺の田んぼ
^{はたけ ひがた}や畑、^{かわら のうどう}干潟などで見られる。^{あ ち}河原や^す農道、^{こそだ}空き地などでも^す巣をつくり^{こそだ}子育てすることがある。

^{すがた かたち}どんな姿、^{まわ せん かお}形か:黄色の目の回りの線、顔
^{くびわ}と^{おびもよう とく}黒い首輪のような帯模様が特ちょう。

^{はるさき}鳴き声:ピオ、ピオと鳴く、春先から夏ころには
ピオ、ピオ、ビュー、ビューと鳴いて^{と まわ}飛び回る。

^{た じめん す}その他:地面に^{たまご う}巣をつくり^{たまご いし}卵を産むため、^{いろ もよう めだ}卵は石のような色と模様で目立たない。



No.25 コブハクチョウ

(カモ科)

大きさ: 125~165 cm



いつ頃見られるか:^{ごろ}一年を通して見られる。
5~6月頃はヒナの^{ころ}姿も^{すがた}見られる。

どこで見られるか:^{てがぬま}手賀沼や^{てががわ}手賀川の^{みずべ}水辺や田んぼでよく見られる。

どんな姿、形か:^{すがた}くちばしは^{かたち}赤みのある^{だいたい}橙色で、^{だいたい}ひたいに黒く大きなこぶがある。

その他:^た外国から来た^{がいこく}鳥で、^きもともと日本にいた鳥ではない。自然の^{しぜん}大きな池や沼など^{いけ}に^{ぬま}すむようになり、ヒナも^う産んで育てる。

鳴き声:ほとんど鳴かないが、^{こそだ}子育て中はシューツという、人をけいかいする声を出すことがある。



No.26 サシバ

(タカ科)

大きさ: ^{やく}約50cm



^{ごろ}いつ頃見られるか: ^{なつどり}夏鳥で、3月から7月頃
^すに見られる。8月を過ぎると見られなくなる。

^{さとやま}どこで見られるか: 里山のタカといわれ、
^{てが}手賀 ^{おかこうえんしゅうへん}の丘公園周辺 ^{かしわしてが}や ^{ふぜ}柏市手賀・布瀬
^{ちく}地区、^{あび}我孫子市 ^{こしなかびょうちく}中峠地区 ^{はやし}などの林や
^{やち}谷地で見られる。3、4月頃は ^{ころ}電柱 ^{でんちゆう}に ^と止まっていることがある。

^{するど}鳴き声: ピックイーなどと鋭い声で鳴く。

オス・メスとも鳴き、^きキスミーのように聞こえる。

^{すがた}どんな ^{かたち}姿、^{からだ}形か: ^{じょうめん}体の上面は ^{かつしよく}褐色、^{じゅうはん}どの ^{かめん}は ^{おうはん}白く黒い縦斑がある。下面に横斑があ
^{びはん}る。メスは ^{めだ}白い眉斑が目立つものが多い。



No.27 シジュウカラ

(シジュウカラ科)

大きさ: ^{やく}約14cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか:^{はら}ヨシ原、^{はやし}林、^{こうえん}公園や
^{まちなか}街中の^{たき}立ち木など、^{いろいろ}色々な^{ところ}所で見られる。
^{てがぬまゆうほどう}手賀沼遊歩道でも見られる。

^{すがた}どんな^{かたち}姿、^{じょうめん}形か:^{はいいろ}上面は灰色、^{あたま}頭は黒く、
^{ほお}頬が^{かめん}白い。下面は^{のど}白く、^{むね}喉から^{はら}胸・腹に^{もよう}黒い
ネクタイのような模様がある。

鳴き声:さえずりは「ツツピー、ツツピー」、
^{ちな}地鳴き「チンチン、ジュクジュク」など。

^たその他:冬は^まメジロやエナガなどが混じっ
^むた群れていることが多い。



No.28 ジョウビタキ

(ヒタキ科)

大きさ: ^{やく}約15cm

メス



^{ごろ}いつ頃見られるか:^{ふゆどり}冬鳥で、11月から3月
^{ごろ}頃まで見られる。

^{まちなか} ^{こうえん} ^{にわさき}どこで見られるか:街中の公園や庭先から
^{はたち} ^{はら} ^{いろいろ} ^{ところ}畑地やヨシ原まで色々な所で見られる。

^{すがた} ^{かたち} ^{あたま} ^{ぎんいろ} ^{かお}どんな姿、形か:オスは頭が銀色、顔から
^{のど} ^{じょうめん} ^{かつしよく} ^{はら} ^{あかちやいろ}喉と上面は黒っぽい褐色、腹は赤茶色で
^{つばさ} ^{はね} ^{めだ} ^{あたま} ^{じょうめん}翼の白い羽が目立つ。メスは頭から上面
^{はいいろ} ^{かつしよく} ^{かめん} ^{かつしよく}が灰色っぽい褐色、下面はうすい褐色で、
^{つばさ} ^{はね}翼の白い羽はオスより小さい。

鳴き声:ヒツ、ヒツ、カタカタと鳴く。ルリビタキと
くべつ
区別がむずかしい。カツ、カツ、カツとも鳴く。



No.29 スズメ

(スズメ科)

大きさ: 14~15 cm



^{ごろ}
いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

^{まちなか} ^{こうえん} ^{たはた}
どこで見られるか:街中から公園、田畑、ヨ
^{はら} ^{いろいろ} ^{ところ}
シ原まで、色々な所で見られる。

^{すがた} ^{かたち} ^{あたま} ^せ ^{かつしよく} ^{じょうめん}
どんな姿、形か:頭と背は褐色で、上面
^{じゅうはん} ^{つばさ} ^{ほそ}
には黒い縦斑がある。翼には細い2本の
^{せん} ^{かお} ^{ほお}
白い線がある。顔は白く、頬に黒い大きな
^{てん}
はん点がある。

^た ^{みぢか} ^{ひと} ^す ^{ところ}
その他:身近な鳥で、人が住んでいる所
^{せいかつ} ^{はら} ^{たはた}
で生活する。秋冬にはヨシ原や田畑など
^む
で大きな群れでいることがある。

^{ちな}
鳴き声:地鳴きは「チュン チュン」、
「ジュジュジュ」などと鳴く。



No.30 セグロカモメ

(カモメ科)

大きさ: 55~67 cm



いつ頃見られるか: ^{ごろ}冬鳥で、^{ふゆどり}11月から3月
^{ころ}頃まで見られる。

どこで見られるか: ^{かず}数は多くないが、^{てが}手賀
^{ぬま}沼や^{てががわ}手賀川でよく見られる。^{てがぬま}手賀沼では、
^{くい}杭や^{こぶね}小舟などの^{やす}上で^{すいめん}休んでいたり、^う水面に
浮かんでいることもある。

どんな ^{すがた}姿、^{かたち}形か: ^{おおがた}大型のカモメで、^{あたま}頭と
^{かめん}下面は白、^{じょうめん}上面は灰色、^{はいろ}翼の^{つばさ}先は黒くて白
^{てん}いはん点がある。^{くちばし}嘴は黄色で、^{したくちばし}下嘴の^{さき}先
に^{てん}赤いはん点があり、^{あし}足はピンク色。

鳴き声: ガァアハハア、アオー。



No.31 セグロセキレイ

(セキレイ科)

大きさ: ^{やく}約21cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: ^{てがぬま}手賀沼などの ^{みずべ}水辺や ^{しっち}湿地、^{はたち}田んぼや畑地でよく見られる。

^{すがた}どんな姿、^{かたち}形か: ^{あたま}頭から ^せ背と ^{むね}胸は黒いが、^め目の上から ^{くちばし}嘴つけ根と ^ね嘴 ^{くちばし}の下が白い。
^にハクセキレイと似ているが、^め目の下が白くなく黒いので、その ^{ちが}違いがわかる。^{おばね}尾羽が ^{なが}長く、よく ^{じょうげ}上下に ^ふ振る。

鳴き声:ジジッ、ジジッなどと鳴く。

^たその他:日本と ^{ちょうせんはんとう}朝鮮半島の ^{いちぶ}一部だけにしかいない。



No.32 セッカ

(セッカ科)

大きさ: ^{やく}約12.5cm



^{ごろ}いつ頃見られるか: 一年を通して見られるが、4月から10月頃^{ころ}によく見られ、秋冬は見つけにくい。

どこで見られるか: ^{て が ぬま て が が わ し ゅ う へ ん}手賀沼や手賀川周辺の^{は ら く さ ち た は た}ヨシ原、草地、田畑でよく見られる。春から夏に鳴きながら飛^とんでいる^{すがた}姿を見ることが多い。

^{すがた かたち あたま こっかっしょく じょうめん}どんな姿、形か: 頭が黒褐色、上面は黄色^{かっしょく}っぽい褐色で黒い縦斑がある。尾羽は^{じゅうはん おぼね}黒褐色で先が白^{こっかっしょく さき}い。下面はうすい茶色。冬^{かめん}は体^{からだぜんたい}全体の色がうすくなる。

^と鳴き声: オスは飛びながらヒツヒツと鳴いて上にあがり、チャッチャと鳴いて下におりる。



No.33 ダイサギ

(サギ科)

大きさ: 80~104 cm



^{ごろ}
いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

^{てがぬま} ^{てががわしゅうへん}
どこで見られるか:手賀沼や手賀川周辺
^{みずべ} ^{すいでん} ^{すいろ} ^{しっち}
の水辺、水田、水路、湿地などで見られる。

^{すがた} ^{かたち} ^{おおがた} ^{くちばし}
どんな姿、形か:大型の白いサギで、嘴
^{めさき} ^{きみどりいろ}
が夏は黒く、冬は黄色。目先が冬は黄緑色
^{はんしょくき} ^{はじ} ^{あおみどりいろ} ^{くび}
だが、繁殖期の初めは青緑色になる。首が
^{なが} ^{エスじ} ^ま ^{すがた}
長く、S字に曲げた姿をよく見る。

^た ^{みずべ} ^{ある} ^{さかな}
その他:水辺をゆっくり歩き魚・カエルな
^{くび} ^の ^{なが} ^{くちばし}
どをみつけると、首を伸ばして長い嘴で
^{つか}
捕まえる。

鳴き声:グァーグァーと鳴く。



No.34 タゲリ

(チドリ科)

大きさ：^{やく}約30cm



^{ごろ}いつ頃見られるか：^{ふゆどり}冬鳥で、11月から3月
^{ごろ}頃まで見られる。

どこで見られるか：^{はたけ}田んぼや^{しばふ}畑、芝生のあ
^{ばしょ}る場所や^{くさち}草地などで見られ、^む群れているこ
とが多い。

^{すがた}どんな姿、^{かたち}形か：^{がく}額から^{あたま}頭に黒くて^{なが}長い
^{かんむり}冠のような^{はね}羽があり、^{かお}顔に黒い^{ふちど}縁取りのよ
^{もよう}うな模様がある。^{じょうめん}上面は^{ひか}光るような^{みどりいろ}緑色。
^{かめん}下面は^{むね}白く^{ふと}胸に^{おび}太く^{もよう}黒い帯のような模様
がある。^{くび}首が^{みじか}短く、^め目大きい。

^と鳴き声：^{こねこ}飛ぶときミューと子猫のように鳴く。



No.35 タシギ

(シギ科)

大きさ: ^{やく}約27cm



^{ごろ}いつ頃見られるか: 冬鳥で、11月から3月頃に見られる。8月終わり頃には、北から南に渡るものも見られる。

どこで見られるか: ^{すいろ てがぬま}田んぼや水路、手賀沼の^{しっち}湿地などで見られる。じっとしているか、^{うご なが くちばし どろ ちゅう}ゆっくりと動き、長い嘴で泥の中のミミズなどを^{つか}捕まえる。

^{すがた かたち しょうめん こっかっしょく}どんな姿、形か: 上面は黒褐色で、クリーム色の線模様がある。下面は白いが、胸に^{せんもよう かめん むね}は黒褐色の縦班がある。嘴はとても長く、^{こっかっしょく じゅうはん くちばし なが}目の前後は褐色の太い帯模様がある。

^{と た}鳴き声: ジェツ、ジュイと、飛び立つときに鳴くことが多い。



No.36 タヒバリ

(セキレイ科)

大きさ: ^{やく}約16cm



^{ごろ}いつ頃見られるか: ^{ふゆどり}冬鳥で、11月から3月
^{ごろ}頃まで見られる。

どこで見られるか: 田んぼでよく見られ、
^{たがや} ^{あと} ^{えさ} ^た ^{あつ}
耕した後の田んぼに餌を食べに集まる。

^{すがた} ^{かたち} ^{じょうめん} ^{はいいろ} ^{かつしよく}
どんな姿、形か: 上面は灰色っぽい褐色
^{こっかつしよく} ^{じゅうはん} ^{かめん} ^{じゅう}
で黒褐色の縦班、下面は白っぽく黒い縦
^{はん} ^{ほそ} ^{びはん} ^{めだ}
班があり、細い白い眉班が目立つ。

^た ^に ^{ひら}
その他: ビンズイによく似るがタヒバリは開
^{ばしょ} ^{ぞうきばやし}
けた場所にすむが、ビンズイは雑木林など
にすむ。

鳴き声: ピッピッピイピイと高い声で鳴き、
おどろいたときに鳴いて飛び立つ。



No.37 チュウサギ

(サギ科)

大きさ: 63~72 cm



いつ頃見られるか:^{ごろ}夏鳥^{なつどり}で、4月から9月頃^{ころ}まで見られる。

どこで見られるか:^{て が ぬましゅうへん}手賀沼周辺の田んぼなどで見られる。夏^おの終わりから秋^{いね}には、稲^{か あと}狩り後の田んぼで^{るい た すがた}バッタ類を食べる姿をよく見られる。その頃には、手賀沼と手賀川^{ころ て が ぬま て が が わ}には、ねぐら^{よる しゅうだん} (夜に集団でねる場所)^{ばしょ}ができることもある。

鳴き声:ゴァーと鳴くが、めったに鳴かない。

どんな姿、形か:^{すがた かたち}中型の白いサギで、^{ちゅうがた}嘴^{くちばし}は短く黄色いが、夏は先が黒くなる。^{みじか さき}



No.38 チョウゲンボウ

(ハヤブサ科)

大きさ: オス約30、メス約33 cm



いつ頃見られるか: 一年を通して見られるが、冬の方がよく見られる。

どこで見られるか: 手賀沼・手賀川や利根川周辺の田畑や河川敷などで見られる。羽ばたきながら、鼠などの獲物を探し、狩りをする姿も見られることがある。

どんな姿、形か: スマートな体形で、オスは頭が青っぽい灰色、上面は茶褐色で黒い点があり、下面は褐色で黒褐色の点がある。顔にひげのような模様がある。メスは頭が茶色。

鳴き声: キイキイキイキと鳴く。春先から夏にオスがメスと呼ぶときクリー、ウリーと鳴く。



No.39 ツグミ

(ヒタキ科)

大きさ: ^{やく}約24cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:^{ふゆどり}冬鳥で、11月から4月
^{ころ}頃まで見られる。

どこで見られるか:^{こうえん}公園の^{くさち}草地や^{たはた}田畑から
^{はら}ヨシ原まで^{いろいろ}色々な^{ところ}所で見られる。^{てがめま}手賀沼
^{ゆうほどう}遊歩道でも見られる。

^{すがた}どんな^{かたち}姿、^{あたま}形か:^{じょうめん}頭から^{はいいろ}上面は灰色がか
^{こっかっしょく}った^{つばさ}黒褐色、^{はね}翼の^{ふち}羽の^{くりいろ}縁は栗色。^{びはん}眉斑と
^{のど}喉は^{かめん}クリーム色。下面は^{むね}白いが、^{わきばら}胸から
^{てん}脇腹にかけて^こ黒いはん点がある。オスは
^{ぜんたい}全体の^こ色が濃くハッキリしているが、メスは
色がうすい。

鳴き声:クィクィまたはキュッキューと鳴く。



No.40 ツツドリ

(カッコウ科)

大きさ: ^{やく}約29cm



鳴き声: ^{たけづつ}ポポポ、^{つづ}ポポポと竹筒をたたくように続けて鳴く。

いつ頃見られるか: ^{なつどり}夏鳥で、^{わた}春と秋の渡りの時期に見られる。

どこで見られるか: ^{さくら}桜の木がある公園や ^{こうえん}てがぬまゆうほどう ^{さくらなみき}手賀沼遊歩道の桜並木などで見られる。
^{さくら}桜の木につく ^{けむし}毛虫を ^た食べる。

どんな姿、形か: ^{すかた}カッコウに似ているが、^{かたち}下面の横斑は ^に太くて ^{かめん}あらく、^{おうはん}目は ^{ふと}カッコウより ^め暗い色。

その他: ^たツツドリは ^{おも}主に ^{たくらん}センダイムシクイに ^た托卵(*)する。

(*) ^{たくらん}托卵とは、^{じぶん}自分の ^{たまご}卵を ^{ほか}他の鳥の ^{とり}巣に ^す産みつけ、^うその鳥に ^{とり}卵を ^{たまご}かえらせてもらい、^{こそだ}子育てしてもらうことをいう。^かカッコウ科の鳥は ^{とり}托卵 ^{たくらん}することで ^し知られる。



No.41 ツバメ

(ツバメ科)

大きさ: ^{やく}約17cm



鳴き声:「チョビッ、チリー」「チプチェイ、チプチェイ、ジー」と鳴く。

いつ頃見られるか: ^{ごろ}夏鳥で、3月から9月頃 ^{ころ}まで見られる。

どこで見られるか: ^{まちなか}街中や ^{てがぬましゅうへん}手賀沼周辺の ^{たはた}田畑、^{はら}ヨシ原などで見られる。家の ^{いえ}玄関の ^{のきした}軒下などに ^す巣をつくり ^{こそだ}子育てする。

どんな姿、形か: ^{すがた}頭から ^{かたち}上面は ^{あたま}黒く、^{じょうめん}下面 ^{かめん}は ^{ひたい}白い。額と ^{のど}喉は ^{あかちいろ}赤茶色で ^{のど}喉に ^{おび}黒い帯 ^{もよう}模様がある。尾は ^お中央で ^{ちゅうおう}深く ^{ふか}切れ込み、^き外側の ^{そとがわ}羽が ^わ長い。^{なが}

その他: ^た夏の ^{おわ}終りの ^{ゆうがた}夕方には ^{てがぬまなんが}手賀沼南岸 ^{はら}の ^{しゅうだん}ヨシ原で ^{ばしょ}ねぐら (^い集団で ^むねる場所) ^む入りの ^む群れが見られる。



No.42 ツミ

(タカ科)

大きさ: オス約^{やく}27、メス約^{やく}30 cm

オス



メス



いつ頃見られるか: ^{ごろ}夏鳥で、^{なつどり}3月から^{ころ}8月頃まで見られるが、^{かず}数は少ない。

どこで見られるか: ^{こうえん}公園や^{まちなか}街中の^{なみき}並木、^{じゅうたくち}住宅地の^{りょくち}緑地などで見られる。

どんな姿、形か: オスは^{すがた}上面が^{かたち}青っぽい^{じょうめん}はいろ、^{かめん}下面は^{だいだいろ}うすい^め橙色で、^め目が赤い。メスは^{じょうめん}上面が^{はいろ}こい^{かめん}灰色、^{かっしょく}下面は^{おう}白く^{はん}褐色の^{はん}横班がある。

その他: ^た日本で^{もっと}見られるタカでは最も小さい。40年くらい^{まえ}前は^{まへ}山の中に^{まへ}いて^{まへ}めったに^{まへ}見られ^{まへ}なかったが、^{きんねん}近年は^{まちなか}街中^{まへ}でも^{まへ}見られる^{まへ}ようになってきた。

鳴き声: キーキツキツキツ、^{しり}ピョーピョツ
ピョツピョツなどと尻さがりに鳴く。



No.43 トビ

(タカ科)

大きさ：オス約^{やく}58.5、メス約^{やく}68.5 cm



いつ頃見られるか：^{ごろ}一年を通して見られる。^{かぜ}春秋には鳴きながら風^とにのって飛ぶ^{すがた}姿をよく見られる。

どこで見られるか：^{てがぬま}手賀沼や^{とねがわしゅうへん}利根川周辺などの水^{みずべ}辺に近^{ちか}い場所や街中^{ばしょ}で見られる^{まちなか}ことが多い。

どんな姿、形か：^{すがた}全体に^{かたち}茶褐色で^{ぜんたい}尾羽は^{ちゃかっしょく}バチ型^{おぼね}に見える。^{がた}

その他：^た日本では最も普通^{もっと}に見られるタカだが、^{てがぬましゅうへん}手賀沼周辺ではそれほど多くはなく、むしろ少ない^{ほう}方^しかも知れない。

鳴き声：^とピーヒョロロと飛びながら鳴く。



No.44 ノスリ

(タカ科)

大きさ: ^{やく}約54cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:^{かんさつきろく}観察記録は一年を通してあ
^{ふゆどり}るが、ほぼ冬鳥で、10月から4月頃まで見られ
ることが多い。

^{てがぬま} ^{てががわ} ^{とねがわ}
どこで見られるか:手賀沼、手賀川、利根川
^{しゅうへん} ^{ひろびろ} ^{たはた} ^{かせんしき} ^{かせ}
周辺などの広々とした田畑、河川敷などで、風
^と ^{すがた} ^{たか} ^{えだ} ^{くい} ^{でんちゅう} ^と
にのって飛ぶ姿、高い木の枝、杭や電柱に止
^{すがた}
まる姿がよく見られる。

^{すがた} ^{かたち} ^{じょうめん} ^{こっかつしよく} ^{かめん}
どんな姿、形か:上面は黒褐色で、下面はク
^{わき} ^{はら} ^{こっかつしよく} ^{もよう}
リーム色で脇から腹にある黒褐色の模様が
^{はらまき} ^{つばさ} ^{はばひろ} ^{かめん} ^{ぜんえん}
腹巻のように見える。翼は幅広く下面の前縁の
^{もよう} ^{めだ} ^{おばね} ^{おうぎがた}
黒い模様が目立つ。尾羽は扇形に見える。

^{しり}
鳴き声:ピーエーと尻さがりに飛びながら鳴く。
冬はほとんど鳴かない。



No.45 ハクセキレイ

(セキレイ科)

大きさ: ^{やく}約21cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: ^{てがぬま}手賀沼などの ^{みずべ}水辺に
いることが多いが、^{たはた}田畑や ^{まちなか}街中の ^{こうえん}公園や ^{じゅう}住
^{たくち}宅地など、^{いろいろ}色々な ^{ばしょ}場所で見られる。

どんな ^{すがた}姿、^{かたち}形か: ^{あたま}頭から ^せ背は ^{こくしょく}黒色か
^{はいいろ}灰色、^{はら}腹と ^{つばさ}翼は ^{おばね}白く、^せ尾羽が長い。メスは背
^{はいいろ}の色がうすく ^{はいいろ}灰色がる。

その他: ^たセグロセキレイと似ているが、^に目の
^{ちが}下が白いことで ^{おばね}違いがわかる。よく ^め尾羽を
^{じょうげ}上下に ^ふ振る。

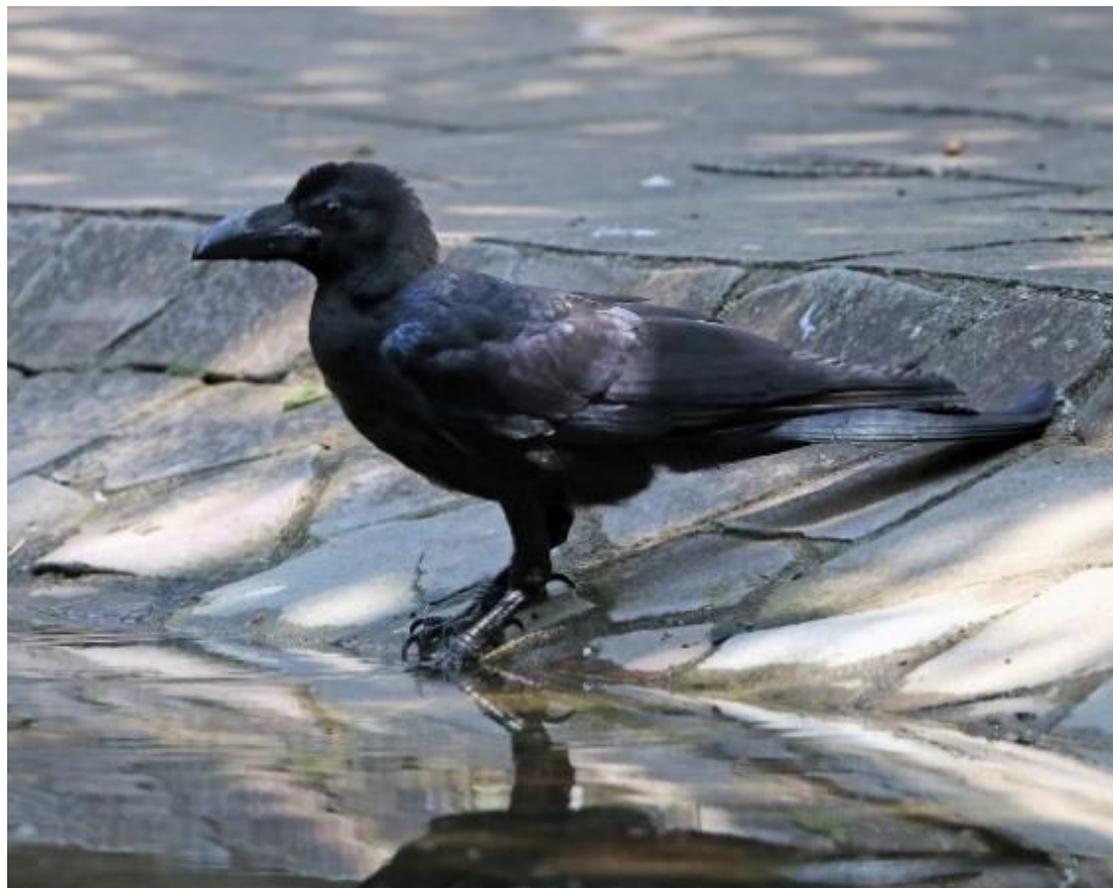
鳴き声: チュチュン、チュチュンなどと鳴く。



No.46 ハシブトガラス

(カラス科)

大きさ: ^{やく}約57cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: ^{じゅうたくち}住宅地、^{はやし}林、^{たはた}田畑など、
^{いろいろ}色々な場所で見られる。^{まちなか}街中で^{あさ}ゴミをあさ
^{すがた}る姿も見ることがある。

^{すがた}どんな姿、^{かたち}形か: ^{ぜんしんま}全身真っ黒で、^{くろ}額が^{ひたい}で
^{くちばし}っぱり、^{ふと}嘴が太くて大きく、^{うえくちばし}上嘴がカーブ
している。

^たその他: ^{とり}鳥の中ではとても^{ちのう}知能が高いとさ
^{こうげきてき}れ、^{おそ}攻撃的で、あまり人を恐れ
ない。

鳴き声:カーカー、カッポカッポなどと鳴く。



No.47 ハシボソガラス

(カラス科)

大きさ: ^{やく}約50cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: ^{て が ぬましゅうへん たはた}手賀沼周辺の田畑に多く見られ、^す高い木の上に巣をつくる。

^{すがた かたち}どんな姿、形か:ハシボソガラスと同じよう
^{ぜんしん ま くる}に全身真っ黒だが、少し小さい。^{くちばし}嘴はハシ
^{ほそ まる}ボソガラスより細く小さく、丸みがある。

^たその他:^{そら}クルミを空の上から^お落とし^わ割ったり、^{どうろ くるま}道路で車にひかせて^わ割ったりして^た食べる
ことがある。

鳴き声:ガァ、ガァとにごった声で鳴く。



No.48 ハジロカイツブリ

(カイツブリ科)

大きさ: 28~34 cm



いつ頃見られるか: ^{ごろ}冬鳥で、^{ふゆどり}11月から3月
^{ころ}頃まで見られる。3月頃には^{ころ}群れを^む見ることがある。

どこで見られるか: ^{てがぬま}手賀沼や^{てががわ}手賀川の
^{すいめん}水面で見られるが、すぐにもぐって、^{すいちゆう}水中の
^{こざかな}小魚やエビなどを食べる。

どんな姿、形か: ^{すがた}小型の^{かたち}カイツブリ類で、^{こがた}翼の一部が^{るい}白く、^{つばさ}目が^{いちぶ}赤い。嘴が^め短く、^{くちばし}少し上に^{みじか}反っている。3月の^そ終わり頃になる
と夏の^お羽色に^{ごろ}変わり、^{はねいろ}顔から^{かお}頭が^{あたま}黒くなり、^め目の^{うし}後ろに^{きんいろ}金色の^{はね}羽がでてくる。

鳴き声: ほとんど鳴かない。



No.49 バン

(クイナ科)

大きさ: 30~38 cm



^{ごろ}
いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

^{てがぬま てががわ}
どこで見られるか:手賀沼や手賀川などの
^{みずべ しっち}
水辺や湿地で見られるが、^{かず}数は少ない。田
^{すいろ}
んぼや水路で見られることもある。

^{すがた かたち くちばし がくばん ひたい いた}
どんな姿、形か:嘴と額板(額にある板
^{はね は}
のような羽が生えていない部分)が赤く、
^{くちばし}
嘴の先は黄色い。

鳴き声:クルツ、^{するど}キヤツと鋭い声で鳴く。
鳴き声^{わら}が笑い声^にに似ている。

その他:^たクイナ類はあまり^{るい}泳がないが、^{およ}バン
は泳ぐことが多い。



No.50 ヒドリガモ

(カモ科)

大きさ: 45~51 cm



いつ頃見られるか:^{ごろ}冬鳥で、^{ふゆどり}11月から3月
^{ころ}頃まで見られる。

どこで見られるか:^{てがぬま}手賀沼の^{しもぬま}下沼(手賀沼
^{おおはし}大橋より^{ひがしがわ}東側)でよく見られる。

どんな姿、形か:^{すがた}オスは^{かたち}頭が^{あたま}レンガ色で
^{ひたい}額から^{あたま}頭の^{てっぺん}天辺まで^{めだ}クリーム色で目立
^{むね}つ。胸は^{かつしよく}赤みのある^{じょうめん}褐色。上面と^{わき}脇は^{はいいろ}灰色
で、^{しまもよう}黒い^{しりぶぶん}縞模様がある。お尻部分は^{しりぶぶん}黒い。メ
^{ぜんたい}スは全体が^{かつしよく}赤みのある^{くちばし}褐色。嘴は^{はいいろ}オス・メ
スともに^{さき}青っぽい^{さき}灰色で^{さき}先が^{さき}黒い。

鳴き声:オスは、^{ふえ}ピューと^ね笛の音のような
強い声で鳴く。



No.51 ヒバリ

(ヒバリ科)

大きさ: ^{やく}約17cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: ^{たはた くさち かせんしき}田畑、草地、河川敷などでよく見られる。

^{すがた かたち あたま うし かんむり}どんな姿、形か:頭の後ろに冠のような
^{はね}羽があり、^{ときどき た}時々立てる。上面は黄色っぽい
^{かつしよく こっかつしよく じゅうはん かめん}褐色で黒褐色の縦班がある。下面は白く、
^{むね こっかつしよく じゅうはん}胸に黒褐色の縦班がある。

鳴き声: さえずりは空高く飛びながら、ピークピークチュクチーチーなど。
^{ちな}地鳴きはビュルビュルと飛ぶときに鳴くことが多い。



No.52 ヒヨドリ

(ヒヨドリ科)

大きさ: 約^{やく}27.5cm



鳴き声: ピーヨ、ピーヨと^{さわ}騒がしく鳴く。

ピーピョロピョロピと^{ふくざつ}複雑に鳴くこともある。

^{ごろ}いつ頃見られるか: 一年を通して見られる。

どこで見られるか: ^{まちなか}街中から^{たばた}田畑、^{はやし}林まで、^{いろいろ}色々な^{ばしょ}場所でよく見られる。秋には^{てがぬまじょうくう}手賀沼上空で^{いどう}移動の^む群れも見られる。

どんな^{すがた}姿、^{かたち}形か: ^{ぜんたい}全体に^{はいいろ}灰色っぽい^{かつしよく}褐色で、^{あたま}頭は^{はいいろ}青っぽい^{みみ}灰色。耳の部分^{ぶぶん}は^{ちゃいろ}茶色。

その他: ^た花の^{はな}蜜が^{みつ}好きで、^ず桜の^{さくら}花^{はな}によく^{あつ}集まる。^{えさだい}餌台に^{くだもの}果物をおくとよく^た食べにくる。



No.53 ホオジロ

(ホオジロ科)

大きさ: ^{やく}約17cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか:^{て が ぬま}手賀沼の^{はら くさち}ヨシ原、草地
などでよく見られる。オスは草や木に止まっ
て^{くさ き と}囀るので見つけやすい。地面で草の実
^{さえず}を^{じめん くさ み}食べる^{た すがた}姿も見られる。

^{すがた かたち}どんな姿、形か:^{かお しろくろ もよう}オスの顔は白黒の模様
がはっきりしていて、^{びはん ほお}眉班と頬が白い。メス
^{かお}は顔の色がうすく、^{ちゃいろ}茶色に見える。

^{じな}鳴き声:地鳴きはチチチと続けて鳴き、
さえずりはチョッピーチュチュリと鳴く。

^{た ちばけん けんちよう}その他:千葉県の県鳥。



No.54 ホシハジロ

(カモ科)

大きさ: 42~58 cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:^{ふゆどり}冬鳥で、11月から3月
^{ころ}頃まで見られる。

どこで見られるか:^{てがぬま}手賀沼の^{しもぬま}下沼(東側)
^{かみぬま}でよく見られるが、^{にしがわ}上沼(西側)、^{てががわ}手賀川で
^{とねがわ}も少しが、^む利根川では群れが見られる。

^{すがた}どんな姿、^{かたち}形か:^{あたま}オスは頭がレンガ色で
^め目が赤い。^{からだぜんたい}体全体がうす灰色で、^{はいいろ}胸とお尻
^{ぶぶん}部分が黒い。^{くちばし}嘴は黒く、^{ちゅうおう}中央が灰色。

^{あたま}メスは頭から^{むね}胸が茶色で^{まわ}目の回りが白
^{からだぜんたい}い。体全体がこい灰色で^{はいいろ}褐色の^{かっしょく}まだら
^{もよう}模様がある。^め目は黒っぽい。

鳴き声:クルッ、クルッという声で鳴く。



No.55 ホトトギス

(カッコウ科)

大きさ: ^{やく}約25cm



^{ごろ}いつ頃見られるか: ^{なつどり}夏鳥で、5月から9月頃 ^{ころ}まで鳴き声 ^きが聞かれる。

どこで見られるか: ^て手賀沼 ^{がぬましゅうへん}周辺 ^{まちなか}や街中でも
5~7 ^{ころ}月頃に鳴き声 ^きを聞くが、^{すがた}姿はほとんど
見られない。ごくまれに、^{いどうじき}移動時期に
^{こうえん}公園 ^{さくら}の桜の木などで見られることがある。

^{すがた}どんな ^{かたち}姿、^{かめん}形か: カッコウより小さく、下面
^{おうはん}の横斑 ^{ふと}が太くてあらい。^{すがた}姿 ^{がた}・形より鳴き声
^{ちが}で違いがわかる。

^たその他: ^{おも}主にウグイスに ^{たくらん}托卵する。

鳴き声: キョッキョツと鳴き、「トッキョッキョカキョク」の

^{よる}ように聞こえる。^と夜に飛びながら鳴くことが多い。



No.56 マガモ

(カモ科)

大きさ: 40~66 cm



いつ頃見られるか:^{ごろ}冬鳥で、^{ふゆどり}11月から3月頃まで見られる。

どこで見られるか:^{てがぬま}手賀沼の^{しもぬま}下沼(東側)でよく見られ、^{とねがわ}利根川では^む大きな群れで見られる。

どんな姿、形か:^{すがた}オスは^{かたち}頭が^{あたま}光るような^{ひか}みどりいろ^{くちばし}で、^{きいろ}嘴は^{くび}黄色。首に^{くびわ}白い首輪のような^{もよう}模様がある。体は^{からだ}ほぼ^{はいいろ}灰色で^{むね}胸は^{いろ}茶いろ^{あし}、^{だいだいろ}足は^{ぜんたい}橙色。メスは^{かっしょく}全体が^{くちばし}褐色で、^{だいだいろ}嘴は^{じょうぶ}橙色で^{じょうぶ}上部が黒い。

鳴き声:^{ひく}低い声でグァーとかクワツと鳴く。



No.57 ミコアイサ

(カモ科)

大きさ: 35~44 cm



いつ頃見られるか:^{ごろ}冬鳥で、^{ふゆどり}11月から3月
^{ころ}頃まで見られる。

どこで見られるか:^{てがぬま}手賀沼と^{てががわ}手賀川で見ら
^{かず}れるが、数は少ない。

どんな姿、形か:^{すがた}オスは^{かたち}全身が^{ぜんしん}白く、^{あたま}頭の
^{うし}後ろには^{みじか}白くて^{かんむり}短い^{はね}冠のような羽があ
り、^{あたま}ぼさぼさ^め頭に見える。目の^{まわ}周り^せと背は黒
い。メスは、^{あたま}頭は^{かつしよく}赤い^{のど}褐色で^{くび}喉から首は白
く、^{からだ}体は^{はいいろ}灰色。

鳴き声:キイツ、キイツとかクツツと鳴く。

その他:^たオスは^{かお}顔が^め白く、^{まわ}目の周りが黒い
ので、^よパンダガモと呼ばれる。



No.58 ミサゴ

(ミサゴ科)

大きさ: オス約^{やく}54、メス約^{やく}64 cm



いつ頃見られるか: ほぼ一年を通して見られるが、夏はあまり見られない。

どこで見られるか: 手賀沼で見られ、杭の^{てがぬま}上に休んだり、魚^{くい}を食べる姿や上空を飛びながら獲物をさがし、水に飛びこんで捕まえる姿が見られることもある。数は少ないが、大きな鳥で目立つ。

どんな姿、形か: 頭から首の後ろ、下面は白く、上面は黒褐色で、目の前後を通る黒い太い線模様がある。

その他: 魚を主に食べる。

鳴き声: ピョッピョッピョッ、ピッウィークなどと鳴く。



No.59 ムクドリ

(ムクドリ科)

大きさ: ^{やく}約24cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか:^{まちなか}街中から^{たはた}田畑、^{はやし}林、^{くさち}草地まで^{いろいろ}色々な^{ところ}所で見られるが、^{みずべ}水辺ではあまり見られない。

どんな姿、形か:^{すがた}全体に^{かたち}黒っぽいが、^{ぜんたい}顔に^{かお}白い羽があり、^{はね}オレンジ色の^{くちばし}嘴と^{あし}足が目立つ。飛ぶ姿は^{めだ}翼を開いた形が^と三角^{すがた}じょうぎ^{つばさ}のように見え、^{ひら}腰の^{がた}白さが^{さんかく}目立つ。

鳴き声:キュルキュル、リヤーと^{さわが}騒しく鳴き、^{とき}けいかいする時はギャーと鳴く。

その他:^た夏から秋、^{えきまえ}駅前^{でんせん}の木や電線に^む群れ^とで止まり、^{しゅうだん}ねぐら(集団でねる場所)^{ばしょ}にすることがある。



No.60 メジロ

(メジロ科)

大きさ: ^{やく}約11cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか: ^{まちなか}街中の庭木、^{よし}ヨシ原、^{はやし}林、^{こうえん}公園など、^{いろいろ}色々な所で見られる。^{さくら}桜の花の蜜をなめたり、^{とき}時には^{じゅく}熟した^{かき}柿を^た食べる姿も見られる。

どんな姿、形か: ^{すがた}上面が^{かたち}黄緑色(ウグイス^{じょうめん}色)で、^{きみどりいろ}下面は^{いろ}白っぽく^{かめん}目の^め周りが^{まわ}白い。

その他: ^た果物や^{くだもの}花の^{はな}蜜^{みつ}などが^す大好き。

鳴き声: さえずりは、チーチュル、チロルル、チュル
チーと調子よく鳴く。地鳴きはチー、チューなど。



No.61 モズ

(モズ科)

大きさ: ^{やく}約20cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られる。

どこで見られるか:^{はら}ヨシ原、^{くさち}草地、^{まわり}林の周り、^{かわはら}河原、^{やち}谷地など、^{いろいろ}色々な所で見られ、^{てが}手賀^{ぬまゆうほどう}沼遊歩道でも、^{ひく}低い木や^{でんせん}電線に止まり、^と尾^おをハの字をかくように^し回す^{まわ}姿^{すがた}が見られる。

^{すがた}どんな姿、^{かたち}形か:^{あたま}頭が大きく、^お尾は^{なが}長め。
^{あたま}オスは^{ちやいろ}頭が茶色で^せ背が^{はいいろ}灰色、^{かめん}下面は^{ちやいろ}うす茶色。オスには^め目の^{ぜんご}前後を^{とお}通る^{せんもよう}黒い線模様があるが、メスにはない。

^{しな}鳴き声:地鳴きはキョキョキョ、秋にはキィー
キィキィキィキュリリと^{ところ}高い^と所に止まって鳴く。
^{ほか}他の鳥の鳴きまねをよくする。

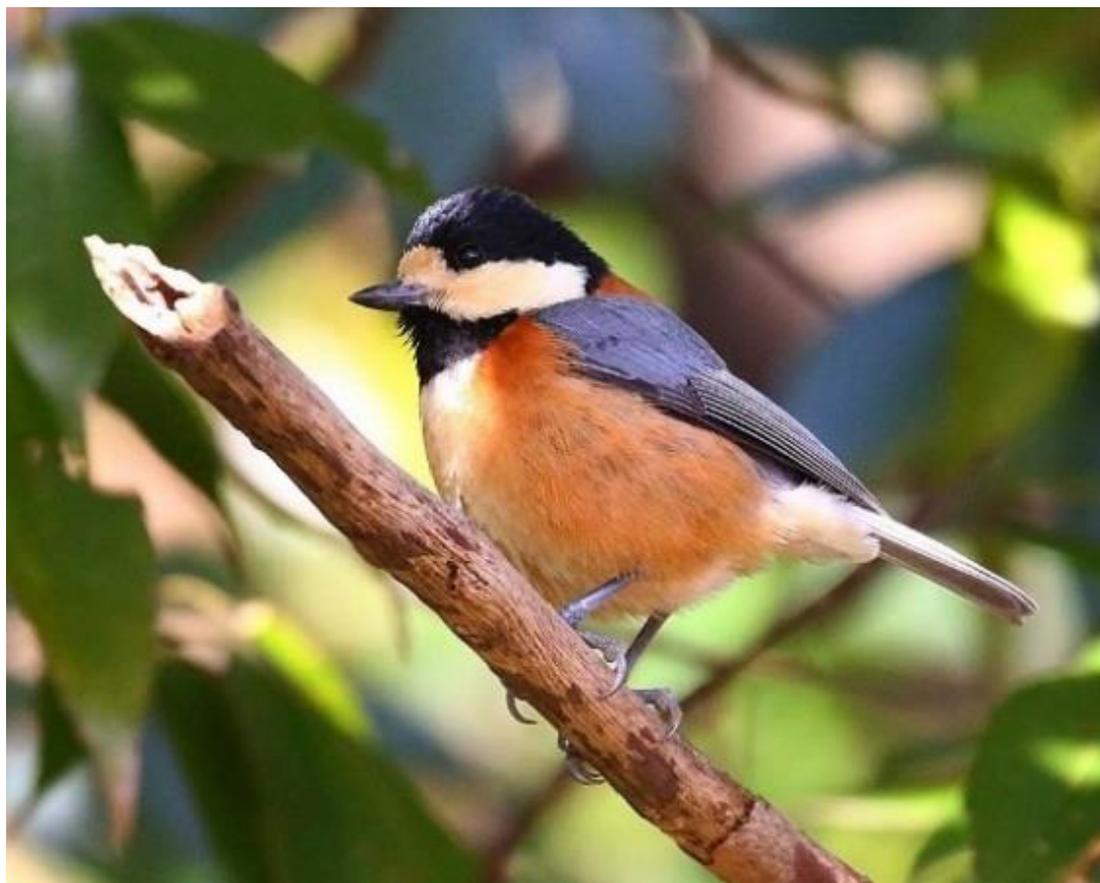
^たその他:^{つか}捕まえたトカゲなどを^{えだ}木の枝にさしておくことがある。「はやにえ」という。



No.62 ヤマガラ

(シジュウカラ科)

大きさ: ^{やく}約14cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:一年を通して見られるが、秋から冬に見られることが多い。

どこで見られるか: ^{あか}明るい ^{ばやし}林や ^{こうえん}公園、^{まちなか}街中の ^{いけがき}生垣などでも見られることがある。

^{すがた}どんな ^{かたち}姿、^{あたま}形か: ^{ほお}頭が黒く ^{ほお}頬がクリーム色。^{いろ}背と ^せ下面は ^{かめん}赤茶色で、^{あかちやいろ}翼は ^{つばさ}青みがかった ^{あお}灰色。

^たその他: ^ま秋冬はシジュウカラなどと混じった ^む群れていることが多い。

鳴き声: さえずりはツツピーツツピーとゆっくりしたテンポで鳴く。^{じな}地鳴きはニーニーなど。



No.63 ユリカモメ

(カモメ科)

大きさ: 37~43 cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:^{ふゆどり}冬鳥で、11月から3月
^{ころ}頃まで見られる。

どこで見られるか:^{てがぬま}手賀沼や^{てががわ}手賀川で見ら
^{てがぬまこうえん}れ、手賀沼公園ではよく見られたが、^{さいきん}最近
は少なくなっている。

どんな姿、形か:^{すがた}小型の^{かたち}カモメで、^{こがた}頭は^{あたま}白
^{ほお}く、^{てん}頬に^{くちばし}黒いはん点があり、^{くちばし}嘴と^{さき}足が赤く、
^{くちばし}嘴の^{さき}先が^{ころ}黒い。3月頃になると夏の^{はねいろ}羽色
に^か変わりはじめ、^{あたま}頭が^{あつ}黒くなる。

その他:^た公園の^{こうえん}池などでも見られ、^{いけ}人が^{ひと}餌
^{えさ}を^{あた}与えると^{あつ}集まってくる。

鳴き声: ギューイ、ギイツと鳴く。



No.64 ルリビタキ

(ヒタキ科)

大きさ: ^{やく}約14cm



^{ごろ}いつ頃見られるか:^{ふゆどり}冬鳥で、11月から3月
^{ころ}頃まで見られる。

どこで見られるか:^{てが}手賀の^{おかこうえん}丘公園、^{ごほんまつ}五本松
^{こうえん}公園などの^{しぜんこうえん}自然公園や^{やち}谷地の^{はやしまわ}林回りなど
で見られる。^{まちなか}街中の^{こうえん}公園で見られることも
ある。

どんな^{すがた}姿、^{かたち}形か:^{ひたい}オスは^{じょうめん}額から^{わき}上面は青
色、^{びはん}白い^{かめん}眉斑がある。下面は^{わき}白く、^{わき}脇は
^{だいだいろ}橙色。メスの^{じょうめん}上面は^{きみどり}黄緑みの^{かつしよく}ある褐色で
^{おばね}尾羽^{あお}に青みがある。

その他:^たとても^{うつく}美しい^{あお}青い^{とり}鳥で^{にんき}人気もの。

鳴き声:ヒッ、ヒッ、ヒッとジョウビタキとよく
に
似た声で鳴く。ギュギュギュと鳴くこともある。



作成年月日：2022年 8月18日

改定年月日：2022年 8月19日（第1回改定）

改定年月日：2022年 9月 8日（第2回改定）

写真提供者：池田日出男、菊池幸雄、桑森亮、酒井英治、
相良直己、清水直樹、関口英治、多葉田五男、
新堀正則、野口隆也、渡邊俊文

制作・著作：我孫子野鳥を守る会（美手連デジタル教材PT）

2023年5月 公開

【ご注意】

- ・本著作物は、「改正著作権法第35条第1項（学校その他の教育機関における複製等）」
「著作権法第32条1項（引用）」を遵守し、ご利用ください。
- ・授業の目的以外での複製などの行為、もしくは第三者への譲渡はおやめください。